

の混合道路
アスファルト
林岡支店
大静

中間処理施設を更新

処理能力高め環境配慮

大林道路中部支店（森俊二 常務執行役員支店長）は、静岡市の静岡アスファルト混合所の中間処理施設をリニューアルし、22日に現地で安全祈願祭と起動式を開いた。

新たに建設した中間処理施設のがれきり類保管施設の容量は5100立方メートル。クラッシュングプラントの処理能力は1

時間当たり100トで、既存施設の同30トから大幅に向上した。プラントの周囲を壁で囲うことで騒音や粉じんなど周辺への影響を抑制し、環境に配慮した施設とした。工期は2017年7月から22年7月まで。

式典で森支店長は「環境保全への取り組みは以前にも増して事業者の使命として求められる社会的責務となっている。新たな中間処理施設は今後



（左から）中山弘志中山鉄工所社長、森支店長、加藤所長

も増加が予想される建設廃棄物の再利用に対応する施設として地域に貢献できると確信している。今後も地域社会とともに歩んでいける混合所を目指す」とあい

さした。

加藤純一所長は「建設に当たっては軟弱地盤の問題などもあったが、無事完成を迎えることができた」と振り返り、工事関係者への感謝を述べた。

静岡アスファルト混合所は73年に操業を開始した。同96トのアスファルトプラントや同60トのリサイクルユニット、120トと140トの合材サイロを備えている。

